

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300038		
法人名	株式会社 VAN		
事業所名	海の見えるグループホームしおさい (西ユニット・東ユニット)		
所在地	〒754-1102 山口県山口市秋穂西3317-1 Tel 083-984-5656		
自己評価作成日	令和05年02月15日	評価結果市町受理日	令和05年04月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和05年03月23日	評価結果確定日	令和05年04月05日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は温暖な瀬戸内海沿岸にあり、南側は車海老養殖池を挟んで秋穂湾に面し、東西はまばらに住宅が連なり、北側には広大な田園地帯の広がる地域にあります。ここで隣接の「デイサービスあいお」と、多世代間交流を目指して地域に根差すべく活動を始めて16年になります。コロナ禍であっても感染症対策をしながら、近隣の砂浜や公園へ毎日曜日必ずドライブへ出掛けます。地域住民の協力で、農園・果樹園での収穫等の外出支援を行っています。施設内では、一日3回ラジオ体操。に続いてピアノ伴奏による歌唱(全224曲)を行い、脳活性の取り組みを行っています。土いじりの好きな入居者は職員とともに草取りや植え物を楽しんでいます。今秋は「しおさいまつり」が開催出来るかも。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目の前に海を臨み、反対側には田園地帯が広がる自然に恵まれた環境の中に、2007年6月に開設した定員18名のグループホームである。社協の会長や自治会会長、民生委員、消防署、派出所等、運営推進会議の委員を中心に地域からの温かな支援の下、地域の一員としての交流を広げている。(現在はコロナ禍で自粛中)利用者、家族の希望するかかりつけ医、ホーム提携医、訪問看護師との連携で安心の医療体制が整い、看取りも行っている。栗拾いや砂浜の散歩、芋掘り、柿の収穫、花見等、密にならない場所への外出を積極的に行い、利用者の笑顔に繋げている。また、管理者のピアノ伴奏に合わせて歌うことも利用者の大きな楽しみである。職員から提供するケアのみではなく、自然環境の中で、利用者の内から湧き起こる感情を待つこと、見守ることを大切にしたい支援に取り組んでいる、「海の見えるグループホームしおさい」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、開設時に代表者、施設長、当時の職員とで策定し、事務所に掲示している。常に心に留めて、日々のケアや事務所での業務であっても実践できるよう、心掛けている。	開設時に話し合っ作成した理念を見やすい場所に掲示している。毎月のユニット会議や2ヶ月毎の全体会議の中で、理念を実践できているかを振り返り、意識づけを行っている。理念の下、自然に恵まれた環境の中で地域の一員として、安全で健康に暮らすことが出来るよう支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍においては行事の開催はされていないが、地域住民の厚意で、イモ掘り、柿・栗拾い、金柑採り、野菜の差し入れ、花の苗の提供、家具や備品の寄付があった。入居者の作品を地域の施設に展示して貰う等の活動をしている。秋のしおさいまつりが開催されれば、地域ともご家族とも交流が出来るが・・	コロナ禍の中で、行事等は控えているが、地域の方から声を掛けてもらい、芋掘りや柿、栗拾い、金柑取りを行ったり、利用者の作品を外部に展示してもらおう等、工夫しながら、今できる交流に取り組んでいる。今後のコロナ状況を判断しながら、しおさい祭りの復活や、ボランティアの受け入れ再開等を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年は、家族や知り合いとの面会や、運営推進会議での認知症の啓発や介護相談を行っているが、コロナ禍で制限を行っており実践できていない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回指摘を受けた所について、職員で話し合い、改善に努めており、改善していくことで支援の幅が広がっていったと感じている。	外部評価の意義について、管理者が職員に分かり易く説明し、自己評価表を職員に配布して記入してもらい、改めて日々の介護の見直しに取り組んでいる。外部評価結果について職員会議の中で話し合い、ホーム運営や業務改善、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一昨年より、事業所内で職員のみでの開催となり、職員同士での情報共有や意見交換を行っている。他のメンバーへは議事録・資料と共に、返信用封筒を同封し、意見や感想を頂いて、事業所の運営活動に活かしている。	コロナ禍以前は、2ヶ月毎に開催し、社協会長、自治会会長、民生委員、消防署、派出所、包括(2回)、行政(4回)の参加が得られていた。コロナ禍の中、現在は職員のみで開催し、外部の委員へは資料、議事録と共に返信用封筒を同封し、意見や質問等を返送してもらい、それらをサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新申請時に介護課を訪問する際には事業所の取り組み内容を相談している。生活保護担当者とも連携を保てるよう、利用者や事業所の報告や相談を行っている。	管理者は、疑問点や困難事例について、行政担当窓口と相談し、空き状況や事故等の報告を行い、連携を図っている。運営推進会議に行政担当者、地域包括支援センター職員が交代で参加し、(現在はコロナ禍で書面で報告)ホームの現状を伝え、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所は住宅のそう多くない場所にあり、大型ダンプトラックや定期大型バスも行き交う狭い道路に面しているため、ご家族の了承を得て、玄関には施錠している。身体拘束の事例を研修会で学び、拘束を行わないケアを行っている。散歩や外出の希望を募って、職員と外の空気・雰囲気を楽しんでおられる。	「身体拘束等適正化のための指針」を基に職員研修を行い、3ヶ月毎に委員会を開催し、身体拘束が利用者に及ぼす弊害について理解し、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしない、させない介護サービスの提供に取り組んでいる。また、道路状況や利用者の状態と安全を優先し、家族の承諾を得て、玄関の鍵は施錠している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に対する事例検討をミーティングで学ぶ機会を設け、虐待が見過ごされないよう注意を払い、疑問点があれば直ちに管理者に相談・報告するように努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している入居者はあるが、断片的な知識でしかないので、権利擁護に関する勉強会を検討している。司法書士さんに依頼して勉強の機会を設けるよう準備している。ZOOMか面会の制限が緩めば実施したい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては事前に家族立会のもと、十分に説明、理解・納得して頂けるよう努めている。又、家族が気軽に不安や疑問を伝えられるように、施設長の携帯電話は24時間OKと伝えており、ケアマネジャーや担当職員はご家族と電話連絡を頻繁に行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通常の家族との電話では、ヒアリングを含めたコミュニケーションを積極的に図っている。意見があった時には、ミーティングや連絡ノートを使って情報共有し検討して、入居者とその家族に対応するようしている。	職員は、家族の面会時や電話等で、利用者の健康状態やホームでの暮らし振りを報告し、家族の意見や要望、心配な事を聴き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。コロナ禍の中で、家族の面会が制限されているが、報告、連絡、相談を小まめに行い、家族の安心に繋がるように取り組んでいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者、職員間での三者面談は行われていないが、ミーティングや日頃の勤務時間中に職員の意見や提案に耳を傾け、職員それぞれが工夫したことを現場に反映できるようになっている。	毎月開催のユニット会議や2ヶ月毎の全体会議の中で、職員の意見や要望、提案等を話し合い、ホーム運営や業務改善に反映させている。また、何でも言いやすい雰囲気の中で、日頃の業務中に職員の気づきや提案をよく聞いて、運営に反映できるよう取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に来所し、現場の状態や各職員の勤務状況の把握に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の勤務状態から、職員一人一人のケアの質や力量を把握するよう代表者や管理者は努めている。隔月で全員参加の研修を行っている。外部研修はコロナ禍で開催も少なかったが、案内は職員に公開している。	2ヶ月毎の全体会議の時に、管理者やリーダーが講師となって全体研修を行っている。新入職の職員については、現場で働きながら学ぶことが出来るよう指導している。コロナ禍で、外部研修の機会は減っているが、情報は職員に伝えている。資格取得についてもシフトの調整や費用の補助などの支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員一人一人が同業者と交流を持つ場面は少ないが、個々のネットワークを活用して得た情報は、ミーティング時を活用して情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後家族からの情報、本人の要望等を聞き、早く安心出来るよう傾聴を積み重ね信頼関係の構築に努めている。本人の言動や表情の変化にも気づき対応できる関係づくりを行っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者本人もご家族も高齢となる中で、困っていることコロナ禍で不安に感じることを聞ける関係作り、窓越しではあるが、面会の為の来所の促し、来所し易い雰囲気を作り、要望に耳を傾け応じられるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の段階で、最優先する支援・関係作り、課題を見極めるため、本人家族の話から情報収集し、早々に対応できるよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、したいことを見つけ、それを日課の課題に取り入れての日々の暮らし、そして感謝の気持ちを伝え、自信を持って頂けるよう助言をする等、工夫している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	窓越し面会や電話、写真付きハガキを通して、日頃の状態を伝え、本人と家族の絆が深まっていくよう環境を整えている。家族との関係を考慮し、共に支えていくよう取り組んでいる。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍に伴い、馴染みの場所や人と会う機会は減っているが、繋がりが途切れないよう、窓越し面会、電話や写真、手紙でのやり取りを継続出来るようにしている。	新型コロナ感染症対策の為、面会はガラス越しでお願いしているが、家族や親戚、友人、近所の方等が訪れている。電話の取り次ぎや手紙のやり取りを支援する等、利用者のこれまでの大切な馴染みの関係が継続できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶やおやつの時間を利用して、ホールへ出て頂くようにして、入居者同士の関係性を把握し、座席やフロア内の配置を工夫し関わり合える支援を行っている。入居者から、他の入居者の変化を気にして職員に報告もあり、互いを気遣い支えあう関係作りが出来ている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族から相談を受けることがあり、関係や支援の方法や他者の紹介、手続きについて、相談・支援に努めている。お礼の手紙や電話を受けることもあり、職員の励みにともなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望・意向を聞き取り、ケアへ反映させている。特にここでは、入居者の皆さまの発する言葉以上に、表情・態度・様子から読み取り汲み取ることが必要な場合が多々あり、そこから希望・意向を組み立てて、検討を加えて対応している。	日々の暮らしの中の会話から、利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報を共有し、利用者の思いが実現出来るように支援している。意向表出が困難な利用者には、家族に相談したり、職員が利用者に寄り添い話しかけ、表情や仕草を観察しながら、利用者の思いに近づく努力をしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との連絡時等の機会を利用して、これまでの生活の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、記録や業務連絡ノートに記して、必要時にカンファレンスを実施している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングを行い、必要に応じてその都度、介護計画の見直しを行っている。日々の状態をご家族に伝えてその思いを聞き、意向を取り入れて、ケアプランを作成している。	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、毎月のユニット会議の中で、職員の意見を集約して検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。利用者の状態変化があれば、毎月のモニタリングで検討し、現状に即した介護計画となるよう、その都度見直しを行っている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録、業務記録、日報などの記録を積み重ね、引き継ぎの際に共有して相談するなどして、現状に即したケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付添い時、家族、訪問看護、訪問診療と連携を図り、情報交換を実施している。現状の把握をし、その時々ニーズに対応した柔軟なサービス提供を心掛けている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事や催し物に参加、馴染みの環境で支援やくらしを楽しめるよう努めていた。が、コロナ禍に伴い以前のような参加が出来ないため、当施設内の花壇やプランターや地域から提供された野菜・花等に触れたりお世話をする中で、本人の心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しめるように努力している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望を確認し、かかりつけ医を決めている。殆どが2週間毎の訪問診療を利用。コロナ禍に伴い通院同行出来ない家族のため、受診支援を行っている。受診結果は、家族と職員間で情報共有できるように記録・申し送りを行っている。月2回の訪問診療も活用し医療連携を行っている。	入居時に利用者や家族の希望を優先して主治医を決めている。馴染みのかかりつけ医受診は家族対応でお願いし、結果を家族から聴き取っている。協力医療機関医師による月2回の往診と訪問看護師、介護職員が連携して24時間利用者の健康管理を行い、安心の医療体制が整っている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を看護師に連絡・相談しながら支援している。月2回の訪問看護で必要な情報を提供し、日々の疑問や対処法について指導を受けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の了承を得て、救急搬送、入院時には本人の情報提供を行っている。入居者が安心して治療を受けられるよう、早期に退院出来るよう、様子の確認を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、終末期のあり方について早い段階から本人・家族と密に話し合いを持ち、当施設で出来ることを十分に説明しながら方針を決めて共有し、支援している。	重度化や終末期に向けた方針については指針を基に、契約時に利用者、家族に説明している。利用者の重度化が進むと、看取り対応や転院、他施設入所等を含めた方針を家族や主治医と確認し、関係者と情報を共有し、利用者が終末期を安心して過ごせるよう環境整備に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	消防の方から、緊急時の対応について勉強会を実施した。実践力を身に付けられるよう、日頃から職員同士で心臓マッサージ、AEDの使用法の訓練を行っている。	事故防止や発生時の対応についてのマニュアルを作成し、緊急時対応の勉強会を実施している。ヒヤリハットや事故報告を回覧し、申し送りや会議の時に再度検討して事故防止に取り組んでいる。管理者が講師として救急救命研修を実施し、職員一人ひとりが初期対応や応急手当を学び、実践出来るように取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当施設は沿岸部に位置しているため、津波の被害が予想される。常に、すぐにライフジャケット着用が出来るように訓練を行っている。緊急時対応マニュアルを周知するよう徹底している。	隣接デイスサービスと合同で年2回非常時を想定した避難訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方、非常口、避難経路、避難場所の確認と、ライフジャケット着用の訓練を行っている。地域の防災委員と避難経路を確認する等、協力体制を築いている。非常食や飲料水、カセットコンロを用意して、非常時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格やこれまでの生活環境・習慣も踏まえて、使う言葉や口調に気をつけその人に合った声かけを行っている。トイレや入浴時はプライバシーや自尊心を損なわないよう本人の立場に立って対応するよう心掛けている。	利用者一人ひとりの人格を尊重した介護の在り方を職員間で話し合い、その人らしさを大切に支援に努めている。親しみのある言葉で話しかけるように心がけ、利用者が安心して過ごせるよう取り組んでいる。特に、排泄や入浴の場面では、利用者のプライドや羞恥心に配慮した言葉かけや対応を心がけている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での関わりで、本人の思いを汲み取り声かけをしている。本人の希望を聞き、自己決定出来るよう無理強いしないように配慮している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休憩、食器洗い、洗濯物干し、乾いた洗濯物畳み、野菜・花の手入れ、掃除、体操、歌唱など、本人の体調や気持ちの変化がある中で、本人の思いや希望を大切に尊重し決定できるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容院の活用、また髭剃り、爪切り、耳垢取りは定期的に行っている。衣類は本人が選べるように声掛けし、季節やその場に応じた衣服を着用出来るように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で以前の様に大声で楽しく会話をしながら食することは行っていないが、入居者と育てたり採り入れた野菜・季節のものを使用し、季節感の取り入れが出来るようにしている。また、本人の身体・口腔の状態に合わせ、ミキサー食、おかゆ等、食事形態を変えて提供している。	配食サービスを利用し、朝食と毎食のご飯と汁物はホームで作って提供している。コロナ禍の中で、利用者と職員が会話しながら楽しく食べる事は困難であるが、畑で利用者と育てた新鮮な野菜や収穫し、栗や柿を採り入れた季節感のある食事やテイクアウトの握り寿司等は利用者に変喜ばれている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分チェックを通して、一人一人の栄養状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導を、介助を行っている。定期的に義歯洗浄剤を活用している。うがいが困難な入居者には、ウエット・ガーゼなどを使用し、口腔ケアの支援をしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を見て、排泄パターンを把握し、トイレ誘導・声掛けを行っている。さりげなく、見守りや声掛けし、配慮を怠らないようにしている。	利用者が重度化してもトイレでの排泄を基本とし、職員は利用者の排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行っている。夜間帯は利用者の体調や希望に配慮しながら、トイレ誘導やポータブルトイレ、オムツ、リハビリパンツ、パット等、柔軟に対応している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤だけに頼ることなく、自然排泄ができるよう、毎日体操、歩行を行っており、水分補給に加えて、食物繊維や腸内活動を促す食材を利用し、整腸作用のある牛乳やヨーグルトを取り入れている。腹部マッサージを行い、状態に応じて医師・看護師に相談し排便コントロールを行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3日入浴。外出や外部医療機関受診がある前日には入浴するようにしている。入浴剤を4種類揃えて、気分を変えるようにしている。本人の体調・時間帯・順番など、希望に沿って、ゆったりと入浴を楽しんで頂いている。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮して週3回を基本として行っている。湯船にゆっくり浸かってもらい、4種類の入浴剤を入れ、利用者がリラックスして楽しめるよう支援している。入浴は、利用者と職員が一对一でゆっくり関わることの出来る大切な時間と捉え、しっかりとコミュニケーションを取っている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や状況に応じて休息したり、生活リズムに合わせ対応している。温度調節、ブラインド開閉上下、照明、エアコンの作動灯など、その方に合わせた支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の準備は担当が行い、その確認は居合わせた職員が行い、当日分は前日の夜勤がセットしている。毎日の様子や血圧変動、排便の確認を行い、変化があれば申し送りをして、必要に応じて訪問看護や医師に相談している。一包化、粉剤など一人一人に合わせた形状で工夫して内服できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物量み、食器洗い、お盆拭き、野菜や花の世話(草取り、水やり)など日々の役割を持ち、新聞読み、相撲観戦、歌謡ショー視聴など日々の習慣が継続出来るよう支援している。塗り絵、歌、ドライブ、散歩、おかし作り、季節の催しなど、楽しみのある生活となるよう支援している。誕生日には、ご本人の好みのメニューに変更したりしている。	利用者の体調や能力に合わせて、洗濯物干し、たたみ、ゲームや脳トレ、食器拭きや台拭き、テレビ体操、風船バレー、栗の皮むき、干し柿作り等、楽しみ事や活躍できる場面を提供し、利用者の生き甲斐のある暮らしの支援に取り組んでいる。管理者のピアノ演奏に合わせて歌を歌うレクリエーションも利用者の楽しみの一つである。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の会話で本人の思いや希望を知り、天候や体調を考慮して、外出支援を行っている。家族からの希望も聞き、支援の提案を行っている。感染予防対策で密にならない、人のいない海岸や公園などの戸外への外出を行っている。	コロナ禍の中であるが、密を避けて、桜、秋桜、紅葉の花見、秋吉台、どんど焼き、降りないドライブ等、利用者の希望を聴きながら、積極的に外出の支援に取り組んでいる。近くの海岸の砂浜、あぜ道の散策なども日常的に行い、利用者の気分転換を図っている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来ない方が多いが、買い物では、支払いは本人にさせていただくようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時にはいつでも電話を掛けられるようにしている。切手や便箋、封筒の準備、暑中見舞い状、年賀状など、投函の支援も行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁や廊下に季節の物の飾り付けを入居者と一緒に作成し、季節感の取り入れに工夫している。ソファやテーブルで自由に談話出来るよう家族的な雰囲気作りを心掛けている。	利用者が一日の大半を過ごすリビングルームは、天井が高く明るく開放的である。掘り炬燵である畳の間では利用者と職員が洗濯物を畳んでいる。ピアノを置いて、管理者の演奏に合わせて歌う時間は利用者の楽しみである。ソファに座って風船バレーで盛り上がる利用者の笑顔が印象的であった。壁には利用者で作った季節感のある作品やカレンダーを飾っている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性や身体状況に合わせて座席を決めている。気の合った者同士で気楽に過ごせるよう、緊張関係に繋がらないような寛げる空間作りや家具の配置を工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物、思い出の品、写真や手紙、職員作成の誕生日プレゼント色紙などを飾っています。心が和む居心地の良い居室作りを心掛けている。	入居前に、利用者や家族と話し合い、利用者が使っていた馴染みの家具や寝具、身の回りの日用品、仏壇、家族の写真等大切な物を持ち込んでもらい、利用者が安心して穏やかに暮らせるように支援している。清掃を小まめに行い、清潔で居心地の良い居室である。	
		建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレには手摺りを設置。入居者の身体状況に合わせたベッドや車椅子を活用している。看護師の指導により、身体機能維持ができ自立した生活が送れるように工夫している。		